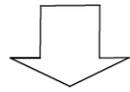


～子どもたちがやる気の出る学校  
職員がやりがいを感じる職場を目指して！～

＜宇治田原町「育てたい子ども像」＞

- ◆夢に向かって自ら学ぶ人
- ◆人とのつながり（絆）を大切にする人
- ◆誇りを持ってふるさとを語る人



＜学校教育教育目標＞

- ◆生涯にわたる学習の基盤を培い、心豊かな人間性と責任感を持ち、主体的に生きる力を育てる。
- ◆心身ともに健やかで知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

特に

- 「知」（確かな学力をはぐくむ）
- 「徳」（道徳性を養う）
- 「体」（健やかな体をつくる）
- 「自」（自己を見つめ将来を展望する力をはぐくむ）  
【周りから認められ必要とされていると感じる、自立、職業意識や考え  
方の変化等】
- 「和」（人権尊重を基盤とし共生する力をはぐくむ）  
【コミュニケーション、おもてなし等】

の5つと以下の3つの行動指針を教育活動全体を通して実践していく。

行動指針：「あいさつ」「そうじ」「時間を守る」を大切にし、規律ある学校生活を創造する。

I 子どもたちがやる気の出る学校

1 褒めて伸ばす教育（児童の自己肯定感、自己有用感を高める教育）

(1) 子どもが認められ安心できる学級・学校づくり

ア 一人一人の人権を尊重する。

イ 教師の子どもを認める言葉の習慣化

(ア) 子どもの「よいところ」を見付け、それを認め、共有する。

(イ) 共に喜び合える人間関係を築く。

子どもたちが互いを認め合える学級作り（コミュニケーション能力の育成）

(ウ) 子どもたちのよい行いなどの見える化

ウ 失敗してもよい（失敗から学ぶ）

エ 間違ってもよい（考えたことに価値がある間違えは正せばよい＝学ぶ）

オ 教室は間違えるところ、間違っても正して成長を遂げるところ

2 一人一人の児童に応じたきめ細かい指導の充実【特別支援教育の視点】

(1) ティーム・ティーチングにより、個々の児童の状況に応じた指導を行う。

(2) 個々の児童の状況に応じた補充学習を行う。【チャレンジタイム、A Iドリルの活用等】

(3) 通級指導教室対象児童への個別支援の充実

【通級指導教室担当者と各担任及び特別支援教育コーディネーター・管理職との連携】

ア 通級指導教室対象児童の状況理解（各学級での授業参観等）

イ 通級指導教室対象児童在籍の担任との懇談

ウ 通級指導教室担当の研修【発達検査を含む】の実施

エ 維孝館中学校での通級指導教室の巡回指導の実施

3 わかりできる喜びを味わう＜教育を行うための指導方法の工夫改善＞

※「学びのサイクル」〔P【めあて】→D【その時間の学習活動】→C【その時間の学習の振り返り】→A【振り返った結果どうしたいのか】〕を確実に実施し自己教育力を身に付けさせる。

(1) 生徒指導の三原則（共感的人間関係・自己存在感・自己決定力）を大切にした授業実践

(2) 「聞く」でなく「聴く」：耳を働かせ、目を働かせ、心・頭を働かせて「聴く」を大切にする。

(3) 授業のユニバーサルデザイン（だれでも、分かる・できる授業）

ア 焦点化：めあての具体化、端的な指示

イ 共有化：本時のまとめ（最適解、納得解など）

ウ 視覚化：全学級における学習の流れを示す掲示カード（めあて・一人学び・話し合い・まとめ・振り返りなど）の活用など

(4) 学習の見通しを持たせた主体的な学び

ア めあての提示

イ 単元ゴール・単元計画の意識化

ウ 学習評価計画の提示【どこで、記録の評価をとるのか児童に単元はじめ等に示す】

(5) 教師は、子どもに「教える人（Teacher）」でなく、学習の主体者である子どもたちの力を引き出す「ファシリテーター（Facilitator）」を目指す。

(6) 対話の場を設定する授業展開（めあての明確化）

ア タブレット端末の活用を含めた課題・目的・状況に応じた最適な話し合い活動（手段）

(ア) 個々の考えを広げる・深める話し合い

(イ) 納得解を出す話し合い

(ウ) 最適解を出す話し合い

(7) 振り返り（「できるようになったこと、分かったこと」「どのように考え、どのように答えが出せたのか」「次にどのようにしたいのか」等を綴る。）によるメタ認知力の育成

4 「令和の日本型学校教育」における「個別最適な学び」と「協働的な学び」及び「主体的、対話的で深い学び」の研究（総合的な学習の時間、生活科）

(1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の追究

ア 「個別最適な学び」「協働的な学び」についての研修

(ア) 「個別最適な学び」に係る「指導の個別化」「学習の個性化」について

(イ) 「個別最適な学び」を生かした「協働的な学び」「主体的、対話的で深い学び」について

(ウ) 「個別最適な学び」「協働的な学び」における、黒板・ノート・ワークシート・ICTの効果的な活用について

イ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の計画

(ア) 研究を推進する教科で重要単元を1単元設定し、学力低・中位層児童を基準にした単元

指導計画作成

- (イ) 設定した要単元内での「協働的な学び」の指導計画作成
- (ウ) 「総合的な学習の時間」における(ア)の学習の発展としての「協働的な学び」の単元指導計画作成

ウ 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実践

- (ア) 設定した重要単元内での「指導の個別化」
  - (イ) 事前研究会【見る視点を明確にした協議】
  - (ウ) 授業研究会【見る視点に沿った参観 ※状況に応じて録画を含める】
  - (エ) 事後研究会【見る視点を明確にした協議】
- (2) 「個別最適な学び」の追究に係る補充学習について
- ア AIドリルの効果的な活用
  - イ チャレンジタイムを活用した効果的な補充学習

## 5 学習評価【田原小学校と連携】

- (1) 「知識・技能」の評価
- ア ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。(業者テストの吟味が必要)
  - イ 実際に知識や技能を用いる場面を設定する。
    - (ア) 児童に文章により説明させる。
    - (イ) 各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験させたり、式やグラフで表現させたりする。
- (2) 「思考・判断・表現」の評価(各教科とも、学期に2単元)
- ※業者テストも評価の1つだが、主としない。
  - ア パフォーマンス評価(話し合い・発表・レポート・作品・実技等々)の実施
    - (ア) ルーブリックの作成・評価
    - (イ) 学習評価計画の子どもたちへの事前【単元の学習が始まる時】提示
- (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
- ア 知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価【ワークシート・ノート等の「振り返り」や次時のめあて設定等から】する。
  - イ 評価の工夫例
    - (ア) ノートやレポート等における記述
    - (イ) 授業中の発言
    - (ウ) 教師による行動観察
    - (エ) 児童による自己評価や相互評価の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の1つとして用いる。

## 6 モジュール授業について

- (1) 年度当初の研修の実施【モジュール授業の基本的理解を図る】
- (2) 効果的な指導方法の交流・活用

## 7 カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた教育課程の編成

各教科で身に付いた資質・能力を他の教科や総合的な学習の時間、特別活動等々で相互に発揮しやすいように教育課程の配列等を資質・能力【育てたい子ども像・「知」「徳」「体」「自」「和」・付けたい力(今年度要協議)】の視点で編成していく。

## II 職員がやりがいを感じる職場作り

### 1 明るい職場＝元気な先生の姿

- (1) 心身の健康：自分・家族の健康、楽しみを大切にする。  
「しっかり食べて、ゆっくりと寝る」「楽しみを持つ」
- (2) 人間関係：互いに子どもの成長を喜びとして共有できる。

互いに悩みを相談できる。 **※悩みを抱え込まない。**  
雑談と笑いも大切に。

※子どもを決して笑いのネタにしない。

- (3) 自己決定：学級担任として、校務分掌による職務遂行に際して、相談することを大切にしながら自己決定し、やりがいを感じながら働く。(学校経営に積極的に参画する。)

### (4) 働き方改革の推進

- ア 1日の職務遂行のセルフ・マネジメント(意識改革)：目安となる退勤時刻の設定
- イ 教材研究の時間確保
- ウ 研修の重点化
- エ 出退勤管理
- オ 17時以降の電話音声案内

## 2 ワンチームとしての職務遂行

- (1) 円滑なコミュニケーションがとれる雰囲気・環境作り
- (2) 教職員間の連携  
情報・課題の共有化

### (3) 自分のポジションを自覚する

与えられたもの：校務分掌、担任等

自らできること：キャリア(経験)、得手不得手等

自分は何ができるかを考える → つながる、支え合い

ex) 互いに協力し合って、一部の教員に職務が偏重されないようにする。

新しく本校に赴任した先生方への支援

学年担当(当該学年経験者による)

校務分掌担当者(当該校務分掌経験者による)

## 3 人材育成

- (1) 自己のキャリア、職務に応じた各種研修への参加
- (2) 重点研究授業及び公開授業の実施
- (3) 若手教員による授業参観(参観の視点)
- (4) 山城教育局教職員支援アドバイザーの活用

## III 保護者にとって信頼できる学校

- 1 適切な学校公開の場【オンラインを含む】を設定するとともに、『お知らせメール』による情報連携、学校・学年だより、学校HP等の工夫による情報発信

- 2 保護者と教師等が、子どものことを気軽に語り合える相談活動の充実

- 3 外部アンケートによる学校改善

## IV 地域にとってつながりあえる学校

【社会総がかりで育てる『おらが町のおらが学校・子どもたち』 包み込まれているという感覚】

- 1 学校支援ボランティア(原木椎茸栽培農家など)をはじめとする諸団体・機関(読み聞かせ隊、福祉教育：手話・点字サークル、社会福祉協議会など)と連携した学習の推進

- 2 見守り安全パトロール隊登録者と連携した子どもの安全確保

- 3 宇治田原地域ぐるみ子育てネットワーク(学社連携活動)の充実